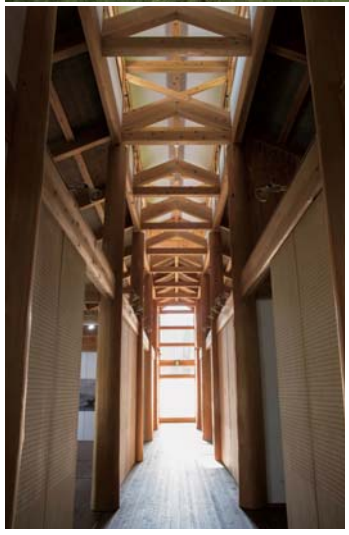
平成27年度 建築作品賞 受賞作品紹介

最優秀賞 「満蒙開拓平和記念館」



▶建設地：長野県下伊那郡阿智村駒場711-10
▶構造・規模：W造（長野県認証材）２階建て、
延べ482.78㎡
▶工事期間：　平成24年９月１日～
平成25年３月28日

森の底から見えるひとすじの希望の光明・・・
今、伝えなければならない平和への願い。

先の大戦中、中国東北部であった悲しい歴史を風化させること無く、次世代に語り継いでいく全国唯一の満蒙開拓に特化した記念館。

賛同者の貴重な浄財でつくる記念館は、出来るだけ質素に、出来るだけ力強くメーセージを伝える館として計画した。外観は大陸の建築のプロポーションと伊那谷の養蚕農家を感じられる形。特に大陸の建築に必ずある煉瓦の煙突とポプラ並木は記念館のシンボルです。

天に向かって林立する8対の地元の杉丸太で組みあげた架構に越屋根からの柔らかい光が差し込みます。左右の登り梁が出会う部分を合掌と言います。光の中でまさしく木の命の永遠に想いを託して手を合わせる。この光の回廊を象徴とする館は、平和を祈る木造打放しの聖堂として記憶に残る空間づくりを目指した。

この館は、近代史の一つの事実をきちんと学ぶ事に加え、悲しい歴史を平和への希望の力に替えていく一人一人の意識改革も迫っている。個人として間違いの無い将来をきちんと判断できる能力を高めなさいと満蒙開拓平和記念館はこれからも語って行く。

■構造・意匠・機能・地球環境維持ユニバーサルデザイン

下伊那の杉、檜130㎥で組み上げた架構は、そのまま潔く構造即意匠の室内空間づくりとした大型木造建築。館内を巡ることにより自分も満蒙開拓団になった体験型の動線展示を考えた。満蒙開拓の史実を分かりやすくゾーニングし、その中央を光の回廊が貫く。光の回廊はヨーロッパの聖堂に習って東西に向きを合わせてある。博物館としては禁断の自然光と重力差換気、薪を燃やすベチカと薪ストーブの炎が見える館は、90歳前後の帰国者達を癒やしている。床は高齢者に優しい地元唐松の木土間とした。

■防災・安全・維持管理

深い庇を出した単純な切り妻の瓦屋根。それだけで高温多雨の日本の木造建築の維持管理への配慮の基本。天井兼野地板は防火を考慮して地元でつくる木毛セメント板とし、屋根断熱＋基礎断熱＋外壁外断熱工法として基本的な性能向上を図った。

■ 設計
新井建築工房
＋設計同人NEXT　代表 新井 優
事務所／飯田市松尾代田1324-1　TEL/FAX 0265-24-2131
HP:next-arai.com　E-mail:next2131@coral.ocn.ne.jp

優秀賞 「地域密着型複合福祉施設 アイリス茅野」

▶建設地：長野県茅野市宮川5778-1
▶構造・規模：鉄骨造3階建て、
延べ面積2685.05㎡
▶工事期間：平成25年7月19日～
平成26年3月27日

心に響く終の住処

昔も今も茅野の生活を支える寒天づくり。特徴的で愛くるしい佇まいの寒天蔵がかつては地域内に林立していた。人々の心の拠所であったそのような場所性を取り戻し、山の上に立地した一般的な福祉施設を街中につくる事が今計画の重要なポイントであった。

茅野市市街地に建つ「アイリス茅野」の平面計画では、すべての主要居室を明るい中庭周りに配置することで、外からの騒音を軽減すると共に、中庭をめぐる回遊動線が各居室を有機的に結び、合理的な施設管理も可能とした。誰でも利用できる地域交流ホールは、中庭との一体利用も可能で、バリアフリーデザインかつ変化に富んだ空間をもたらすよう意図した。

寒天蔵のデザインを伝承させたシャープで軒の深い屋根は内を守り、豊かな生活の場を外へと想起させる。地域のシンボルとなる施設を現在、そして未来に残し、さらに居住者に必要とされる場としていきたいという事業主の熱意によって、このような施設の性格が築かれていった。

次世代を担う地域密着・交流の、新たな複合福祉施設のカタチとして、美しく澄んだ空気で満ち溢れた茅野の風景の一部として、多くの人々の心に響く施設であってほしいと願っている。

■ 設計
株式会社 倉橋英太郎建築設計事務所
EITARO KURAHASHI ARCHITECT & ASSOCIATES
〒399-0005 松本市野溝木工1-1-30　TEL 0263-26-6765
http://www.kurahashi-a.co.jp　FAX 0263-28-6765

■ 施工
株式会社 カネトモ
代表取締役 伊藤 進
〒391-0013 茅野市宮川7081　TEL 0266-72-2575
http://www.kane-tomo.co.jp　FAX 0266-72-0599

優秀賞 「児童養護施設 たかずやの里」

▶建設地：伊那市東春近7000番地８
▶構造・規模：木造平屋建て、延べ面積2096.43㎡
▶工事期間：平成25年８月26日～平成26年８月26日

昨今、虐待を受ける子供たちのニュースが数多く報じられている。子供たちが心身の傷を癒し、夢や希望を持って社会に巣立っていけるようにするための専門的な支援が求められており「たかずやの里」は全国579ヶ所あるその児童養護施設の1つである。これまでの施設は昭和56年以前の建物で老朽化が進み、耐震上の問題や土砂災害警戒区域内にあることもあり、新しい敷地に移転・改築することになった。

子供たちに「温かさ・安らぎ、そして心のふるさと」となるような施設をめざし次の点に配慮し計画された。

1. 多様化している養護ニーズを受け止め子供たちの安心・安全を守り養育の向上を図る。
2. ユニット化することにより全ての日常生活がユニット内で完結できる平面計画とした。
3. 子供たちが見守られていることを実感できるように居間・食堂のパブリックスペースを中心に各個室を配置し、多目的ホールや地域住民との交流室も設置した。
4. 家庭に近い生活を経験できるような空間構成とし、構造的にも木構造を採用した。
5. 工事費は自己資金及び国・県の補助金、上伊那地域からの財政支援などによって賄われ、21万円／㎡という価格が可能となった。

■ 設計
株式会社 城取建築設計事務所
代表取締役 城取 健太
〒396-0026　本社／伊那市西町5863-1
TEL 0265-72-7271　FAX 0265-72-7270
http://www.shiro-tori.com/

建築作品選考委員会
委員長　柳澤 孝彦（㈱柳澤孝彦+TAK建築研究所代表取締役）
委　員　土本 俊和（信州大学工学部教授）
中澤 栄二（㈱エービーシー一級建築士事務所代表取締役）

遠い心の記憶を未来へ語り継ぐ
人の心に通う建築空間

総　評

平成27年度 建築作品選考委員会
委員長 柳澤 孝彦

作品選考委員会は、今回より土本俊和、中澤栄二、柳澤孝彦3名の新しい委員構成により行われた。

平成27年4月25日（土）午前10時より午後3時迄の5時間をかけて、池田修平会長御立合いのもと、日事連建築賞の評価基準に基づき審議を重ねた。慎重審議の末、最優秀賞1点、優秀賞2点を選出した。応募作品数は8点で例年並み。会館・記念館各1点、福祉施設3点、保育園1点、本社ビル1点、住宅1点であった。

最優秀賞に選出された『満蒙開拓平和記念館』は大戦中の大陸における数多の人の耐え難い声なき声が、ようやく長い時間とそれを想う人の熱意を得て、人の心に通う建築空間として建設されるといったプロセスが設計を支えている。記念館は大屋根をコンテキストとした簡潔な構えを貫き、地域に美しい環境を立上げ、遠い心の記憶を未来へ語り継ぐという記念館が持つ本質的機能を際立てた優作として選考委員の注目を集めた。

優秀賞の『地域密着型複合福祉施設アイリス茅野』は茅野市区画整理が進む市街地に立地する地域密着型の福祉施設である。外観は地域の歴史的基調景観の軒深い屋根のデザインをまとって調和を計っている。特徴は機能構成の中央に取込んだ中庭が巧みな解決策となっている。その周辺環境を背にした内向きな空間性が、静かさや明るさを伴う開放感を内部に流通させて、回遊動線や機能空間相互の有機的連結、また施設内の多様な人々の交流を生むなど独創的な計画にまとめ上げられている。

もう二つの優秀賞『児童養護施設「たかずやの里」』は保護者のない児童や虐待されている児童などを入所させる施設で、養護のいとなみをより豊かにするための多様なニーズを受け止めた施設構成となっている。前面に地域住民との接点が得られる広い交流室が管理諸室と共に用意され後方には独立したユニットで児童の日常生活の場が分散配置されている。児童が家庭に近い生活が経験できる木造の生活単位といわばソシアルな場との連携を子供たちが温かく見守られていることが実感できる生活環境として練り上げた計画密度には極めて高いものがある。

この度の選考を通じて高齢者の養護施設と一方で児童養護施設という二極の施設が日本の社会の現実を表徴していることを痛く心に感ずるとともに、いまや大戦後70年の節目に立つ全世界が、過去を見つめいかなる未来への道を見出すかの岐路に立たされていることを思う時、評彰に価する三つのプロジェクトの社会的意義の深さを改めて実感したのであった。この度の応募作品に注がれた設計者の英知に敬意を表すと共に貴重な建設の機会を与えていただいた建築主各位及び関係者に感謝の意をあらわし、創立40周年を迎える一般社団法人長野県建築士事務所協会の発展と会員各位の益々の御活躍を祈念し総評とする。

社会的意義深い 3プロジェクト